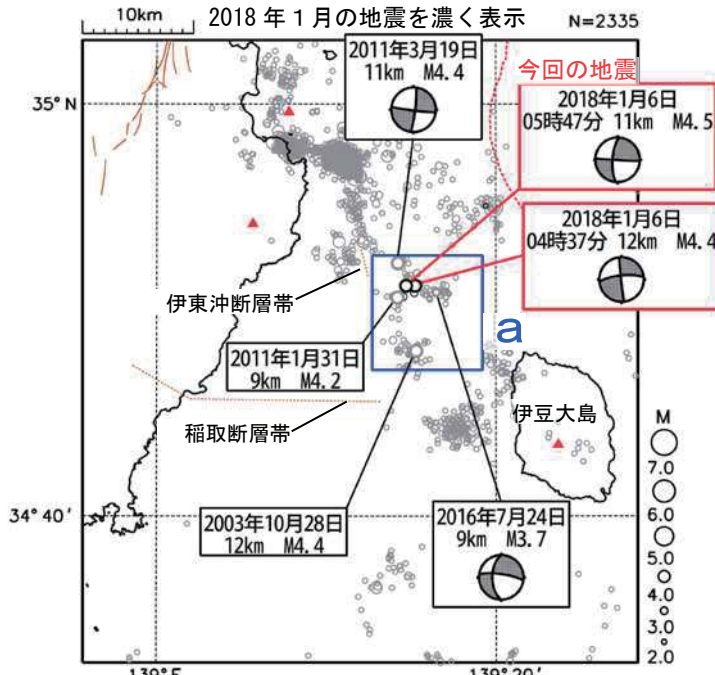


1月6日 伊豆半島東方沖の地震

※情報発表に用いた震央地名は「伊豆大島近海」である。

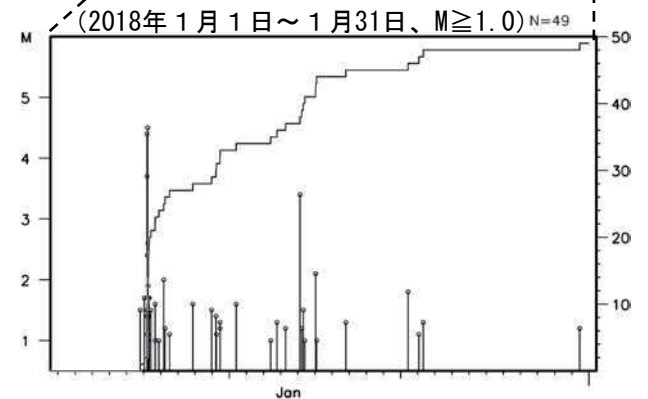
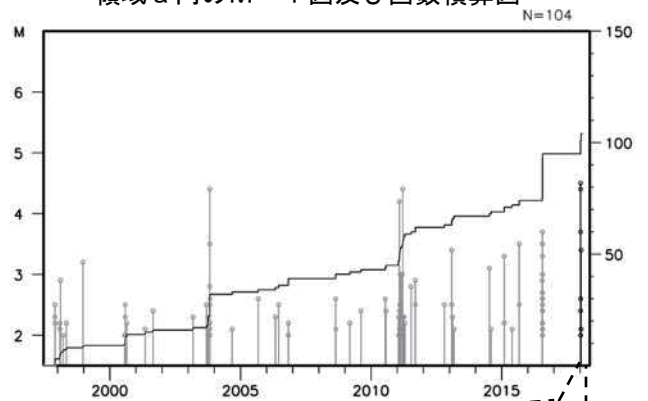
震央分布図 (1997年10月1日～2018年1月31日、
深さ0～20km、 $M \geq 2.0$)



2018年1月6日05時47分に伊豆半島東方沖の深さ11kmでM4.5の地震(最大震度3)が発生した。この地震はフィリピン海プレートの地殻内で発生した。発震機構は北西-南東方向に圧力軸を持つ横ずれ断層型であった。また、同日04時37分にM4.4の地震(最大震度3)が発生するなど、今回の地震の発生前後には、地震活動がやや活発となった。

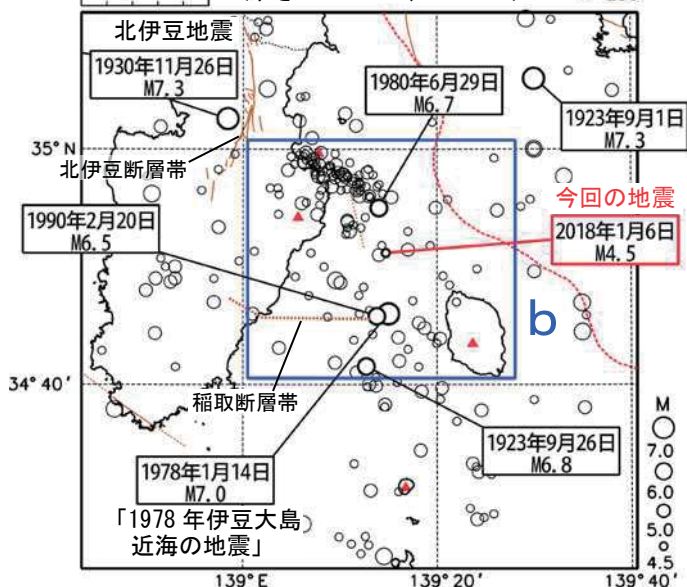
1997年10月以降の活動をみると、今回の地震の震央付近(領域a)では、2003年、2011年、2016年にもやや活発な地震活動がみられている。

領域a内のM-T図及び回数積算図



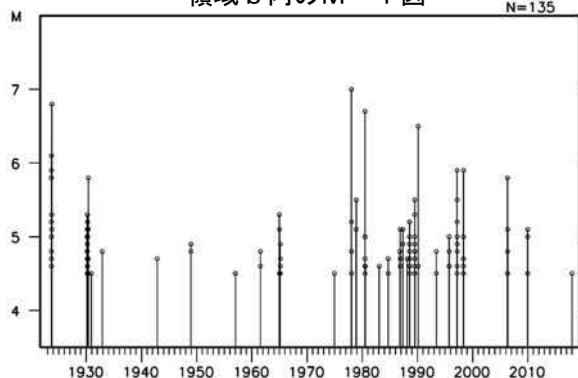
図中の茶色の細線は地震調査研究推進本部の長期評価による活断層を、赤色の破線は海溝軸を示す

震央分布図 (1923年1月1日～2018年1月31日、
深さ0～50km、 $M \geq 4.5$)



図中の茶色の細線は地震調査研究推進本部の長期評価による活断層を、赤色の破線は海溝軸を示す

領域b内のM-T図



1923年1月以降の活動をみると、今回の地震の震央周辺(領域b)では、M6.5以上の地震が4回発生している。最大規模の地震は、稲取断層帯の最新の活動である「1978年伊豆大島近海の地震」のM7.0で、この地震により、伊豆半島で死者25人、負傷者211人、住家全壊96棟等の被害が生じた(「日本被害地震総覧」による)。また、伊豆大島岡田で約70cm(最大全振幅)等の津波が観測された(「験震時報第43巻」による)。